

第三次南相馬市子ども読書活動推進計画 読書のちから*生きぬくちから の概要

計画策定の目的と位置づけ

平成28年3月に「第二次南相馬市子ども読書活動推進計画（以下「第二次推進計画」という。）を策定し、家庭、地域、学校などでそれぞれの役割を果たしながら、各種事業の展開につとめてきたところですが、令和2年度が最終年度となるため、これまでの取組みの成果や課題、情報通信技術の進展など諸情勢の変化等を検討した上で「第三次南相馬市子ども読書活動推進計画」を策定するものです。

目指す子どもの読書推進の姿

■読書が好きな子どもがたくさんいるまち ■子どもに読書の楽しさを伝える人がたくさんいるまち
子どもたちの周りには、「子どもに本を読む人」「子どもに本を手渡す人」「子どもが本と出会う環境づくりをする人」など、子どもに読書の楽しさを伝える人がいるまちを目指します。

第二次推進計画の主な成果と課題

成果

- 乳幼児の親を対象とした母子健康事業での読み聞かせや子どもと絵本を結びつけるブックスタート及び図書館等でおはなし会の取組み等により、家庭における0～6歳までの子どもに対する読み聞かせは根付きつつあると言えます。
- 学校司書の配置や学校図書館の整備を図ることなども、子どもが本に親しむ機会として大切な役割を果たしています。また、その取組みにより、「本を読むことが好き」と答えた小中学生の割合や学校図書館における小中学生への年間一人当たりの貸出点数は大きく目標値を達成しました。
- 図書館での高校生企画事業では、開館10周年である令和元年度に美術作品の展示のほか高校生による出店販売を実施し、図書館での協働事業を実施できました。

課題

- 小・中学校の読書量は、学校ごとに特色のある様々な読書活動により増加していますが、成果指標に掲げた最近1か月に本を読まない小中学生の割合は、目標値を下回っており、より多くの子どもたちが読書習慣を身につけるために、今後も継続して発達段階に合わせた資料の収集や、学校と図書館で連携した取組みを行うことが必要です。
- 小中学校における学校司書の配置状況は、100%を達成していますが、平成29年から配置を開始した専任の学校司書については、令和2年10月現在、12名で小学校15校、中学校6校をカバーしている状態です。学校司書は児童生徒と本及び学校図書館を結びつける重要な役割を担っていることから、全小中学校に専任配置可能となる適正な人数の配置や、研修等を通じた資質の向上が必要と言えます。
- 高校生など（概ね16歳～18歳）の時期は、全国的に読書離れが進んでいるといわれています。本市においても特に読書量の減少傾向が認められます。ティーンズ世代のニーズを的確に把握し、読書意欲の喚起につながるような資料収集やSNS等で興味や関心がもてるような情報提供を行うとともに、高校生が参加しやすい事業を実施し、読書への関心を促進する取組みが必要と言えます。
- 本市では、小中学校におけるICT環境整備を進めており、近年の情報通信手段の普及に伴う子どもたちの読書環境への変化にも対応できる環境づくりが必要です。

第三次推進計画の基本的な考え方

計画期間：令和3年度から令和8年度

基本理念

『読書のちから 生きぬくちから』

情報化社会の中で生まれ育っている子どもたちには、溢れる情報の中から何が正しいのか、自分で判断する力が必要となってきています。次世代を担う子どもたちが、読書を通じて読解力や判断力、想像力、思考力など生きる力を身につけていけるよう読書活動の推進に取り組んでいきます。

基本方針1

子どもの発達段階に応えた読書活動を推進します

子どもは日々成長する過程で、本に出会う機会や親しむ本が違っていきます。子どもの成長を引き出し、成長を見守る読書環境を整備し、生涯にわたり読書をする習慣を身につけるよう、読書活動を推進します。

推進の方策

(1) 乳幼児への取組み

- 目標1：保護者に本との出会いの大切さについて伝える機会を増やします
- 目標2：本の楽しさを実感できる機会を増やします
- 目標3：乳幼児が本と出会うことができる環境をつくります。

(2) 小中学生への取組み

- 目標1：小中学生が読書の楽しさを実感できる機会を増やします
- 目標2：学校図書館を、読書や授業で活用できる場所にします
- 目標3：保護者に向けて、小中学生の読書の重要性について伝える機会を増やします

(3) 高校生などへの取組み

- 目標1：高校生などが読書に興味をもつ機会を増やします

(4) 支援を必要とする子どもへの取組み

- 目標1：読書活動や図書館利用がしにくい子どもが、読書に親しめる機会を増やします

基本方針2

子どもの読書に関わる団体と連携し、読書を応援する人とともに読書活動を推進します

子どもの読書には、家で読み聞かせをする家族、幼稚園・保育園で読み聞かせをする先生、学校図書館や市立図書館で本の楽しさを伝える司書以外にも、ボランティアや子ども文庫をひらく地域の人の存在が欠かせません。このような本と親しむ機会をつくっている身近な人と連携し、子どもの読書活動を一緒に推進します。

推進の方策

(5) 地域の読書活動を応援する取組み

- 目標1：子どもの読書活動を応援する人を支援します

基本方針3

子どもの読書環境の整備・充実を推進します

児童・青少年用図書資料の充実した提供を行うとともに、ICTを活用した情報環境の変化に対応できる読書環境の整備を目指し、電子図書等の新しい情報通信の活用の可能性について検討します

推進の方策

(6) 読書や学習のための環境整備の取組み

- 目標1：多様なニーズを捉えた読書環境の整備に努めます